

市立総合病院増改築事業



ゆったりとした4床室

ゆったりとした4床室
2・3階の外来の各科待合室は、通路部分を含め幅が約8mと広くなります。診療室には入口に引き戸を設置して、患者のプライバシーを保護するようにしています。
5階から11階までの病棟の病室は、1床室と4床室があり、全部で387床。各病室に

11階の高層棟を建築

実施設計では、最初に民間棟(昭和30年建築)を解体して、その跡地などに11階の高層棟を建築するもので、現在の放射線棟(昭和55年建築)と新館(昭和59年建築)を改修して、スパイン棟(玄関ホール、待合ホールなど)で各階それぞれを接続します。そのため、棟から棟へはスムーズに移動ができます。これらが完成した後で、本館(昭和45

年建築)を解体することにしており、神経精神科棟(昭和56年建築)は、現在のままで診療を続けます。延べ床面積は、41,290㎡(新築面積27,860㎡、改修面積10,760㎡、既存面積2,670㎡)で、敷地面積が36,090㎡、駐車場は500台収容を計画しています。

2・3階が外来

5・11階は病棟

設計では1階は薬剤部門や防災センター、コンピューター室、調理場などが配置され、2・3階は外来、4階が医局と手術部門、5階から11階までが病棟となる計画です。

増改築事業 総事業費と財源内訳

総事業費	約111億4,200万円
財源内訳	
企業債	約103億8,100万円
一般会計からの繰入金	約2億4,700万円
自己資金	約5億1,400万円

企業債の返済は、元金・利息の合計額約136億7,400万円を32年間にわたって返済しようとするものです。

増改築事業に当たっては、総事業費、財源内訳、返済計画などを定めた中・長期の経営計画を策定しています。大変厳しい財政状況ですが、耐震調査の結果や患者のアメニティの向上を考えた場合、増改築事業の推進は不可欠です。

はトイレ、洗面台、個人ロッカーを設けています。

憩いのスペースを確保

へりポートも設置

入院患者にとって、病院は生活の場となる施設です。計画では、病院のアメニティ確保の一環として、また憩いのスペースとして、ギャラリやデイルーム、レストラン・売店などのテナントが入居するスペースも確保されています。さらに、患者の緊急時の輸送体制を強化するため、屋上にへりポートを設置しています。

市立総合病院では、市民の皆さま

市立総合病院では、病院事業の平成15年度決算の状況を、平成16年11月29日に公表しました。その内容は、次号(広報大館1月16日号)でお知らせします。

んに信頼される病院づくりに向け、更なる努力を続けるとともに、経営基盤の強化を図りながら本事業を推進します。

